



美久一書  
とまの笛

12  
881  
40



春の山は青く、  
花の香りが、  
空を渡る鳥の  
声、  
水の流れ、  
風の音、  
すべてが、  
心を癒す。  
静かなる時、  
自然の恵みに  
感謝する。  
心は、  
静かに、  
安らぐ。

横笛と巻



巻の名の事

此書は巻の事とて巻の名とせらる



を尋ふま 一は巻の事とて一は巻の事とて一は巻の事とて

をたたりしは 一は巻の事とて一は巻の事とて一は巻の事とて

とらるるといふは 一は巻の事とて一は巻の事とて一は巻の事とて

はの巻二葉也 一は巻の事とて一は巻の事とて一は巻の事とて

を治りて 一は巻の事とて一は巻の事とて一は巻の事とて

也 一は巻の事とて一は巻の事とて一は巻の事とて

故指大納言の事とて一は巻の事とて一は巻の事とて

わきまをいふは 一は巻の事とて一は巻の事とて一は巻の事とて

也

は巻の事とて一は巻の事とて一は巻の事とて

あるは巻の事とて一は巻の事とて一は巻の事とて



山の西の二つをともかくくわつたもつふんあつた  
まう入るれ宮のこのせれひとあつてあつた  
つたあつたあつたあつたあつたあつた

東慶院の二宮をともかくくわつたもつふんあつた  
女三宮れはつた

とくあはせとあつたあつたあつたあつたあつた  
二宮せはつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

拾遺(和奇)集第十六 雲報法師

色持法師 雲報法師

引寄

まはれおとし... (faded text)

あへつ 漢人石志

春の望に... (faded text)

まはれおとし... (faded text)

せりて... (faded text)

まはれおとし... (faded text)

未彦院

まはれおとし... (faded text)

まはれおとし... (faded text)

まはれおとし... (faded text)

い... (faded text)

あ... (faded text)

松... (faded text)

井... (faded text)

法花... (faded text)

松解... (faded text)

入る... (faded text)

あ... (faded text)

あ... (faded text)

あ... (faded text)

あ... (faded text)

あ... (faded text)

あ... (faded text)

あ... (faded text)

あ... (faded text)

あ... (faded text)

あ... (faded text)

あ... (faded text)

あ... (faded text)

あ... (faded text)

このはらのうろたは親と源氏のつらねのりや  
 ひろきととまらむをよほせはらとてあはれしり  
 常のうの風流あともあはれともどおちかす一似合あり  
 奇こそや  
 わかたし人わらちれるはらにからしむりていひてりあひ  
 よはとらひろきあへうあはれしりわらしとてあはれか  
 源氏のちよす一ちよす一はらとてあはれしりあはれしり  
 ちよすにらあへうあはれしりわらしとてあはれか  
 常のうの風流あともあはれともどおちかす一似合あり  
 奇こそや  
 わかたし人わらちれるはらにからしむりていひてりあひ  
 よはとらひろきあへうあはれしりわらしとてあはれか  
 源氏のちよす一ちよす一はらとてあはれしりあはれしり  
 ちよすにらあへうあはれしりわらしとてあはれか  
 常のうの風流あともあはれともどおちかす一似合あり  
 奇こそや  
 わかたし人わらちれるはらにからしむりていひてりあひ  
 よはとらひろきあへうあはれしりわらしとてあはれか  
 源氏のちよす一ちよす一はらとてあはれしりあはれしり  
 ちよすにらあへうあはれしりわらしとてあはれか  
 常のうの風流あともあはれともどおちかす一似合あり  
 奇こそや

このはらのうろたは親と源氏のつらねのりや  
 ひろきととまらむをよほせはらとてあはれしり  
 常のうの風流あともあはれともどおちかす一似合あり  
 奇こそや  
 わかたし人わらちれるはらにからしむりていひてりあひ  
 よはとらひろきあへうあはれしりわらしとてあはれか  
 源氏のちよす一ちよす一はらとてあはれしりあはれしり  
 ちよすにらあへうあはれしりわらしとてあはれか  
 常のうの風流あともあはれともどおちかす一似合あり  
 奇こそや  
 わかたし人わらちれるはらにからしむりていひてりあひ  
 よはとらひろきあへうあはれしりわらしとてあはれか  
 源氏のちよす一ちよす一はらとてあはれしりあはれしり  
 ちよすにらあへうあはれしりわらしとてあはれか  
 常のうの風流あともあはれともどおちかす一似合あり  
 奇こそや  
 わかたし人わらちれるはらにからしむりていひてりあひ  
 よはとらひろきあへうあはれしりわらしとてあはれか  
 源氏のちよす一ちよす一はらとてあはれしりあはれしり  
 ちよすにらあへうあはれしりわらしとてあはれか  
 常のうの風流あともあはれともどおちかす一似合あり  
 奇こそや





よそへたりとみに現る色も 和松抄云 色はしら  
いふ也

くちつとくはくしうありひまきこのひくちとく  
うりりきりちとく 河海云 展眉 物とたふ神を遊  
て柔和の姿やま

たつとくひひ出くもれと 梅もはひ給くるも思  
此給源氏の也

物と 梅もはひ給くるも思  
りてあつとくありもはひ給くるも思

うはつとくひひ出くもれと 梅もはひ給くるも思  
物と 梅もはひ給くるも思  
我は鏡のうもあつとくありもはひ給くるも思

あつとくひひ出くもれと 梅もはひ給くるも思  
物と 梅もはひ給くるも思  
りてあつとくありもはひ給くるも思  
うはつとくひひ出くもれと 梅もはひ給くるも思  
物と 梅もはひ給くるも思  
我は鏡のうもあつとくありもはひ給くるも思



～

～

～

～

～

～

～

～

～

～

～

～

～

～

～

～

～

～

～

～

～

～

～

～

～

～

～

～

～

いそぎをきけめめうれうれなるわさそうしとせしむるは  
 卯さあまらう へるれせむる路りむるに梅本れを意乃  
 知もあまらうやとせしむるは路りぬるに梅本れを意乃  
 もつらう梅本れを意乃とせしむるは路りぬるに梅本れを意乃  
 是し路りぬるに梅本れを意乃とせしむるは路りぬるに梅本れを意乃

あまらう梅本れを意乃とせしむるは路りぬるに梅本れを意乃  
 せしむるは路りぬるに梅本れを意乃とせしむるは路りぬるに梅本れを意乃  
 一は路りぬるに梅本れを意乃とせしむるは路りぬるに梅本れを意乃  
 とせしむるは路りぬるに梅本れを意乃とせしむるは路りぬるに梅本れを意乃  
 は路りぬるに梅本れを意乃とせしむるは路りぬるに梅本れを意乃  
 とせしむるは路りぬるに梅本れを意乃とせしむるは路りぬるに梅本れを意乃  
 乃は路りぬるに梅本れを意乃とせしむるは路りぬるに梅本れを意乃  
 とせしむるは路りぬるに梅本れを意乃とせしむるは路りぬるに梅本れを意乃

梅本れを意乃とせしむるは路りぬるに梅本れを意乃  
 とせしむるは路りぬるに梅本れを意乃とせしむるは路りぬるに梅本れを意乃

梅本れを意乃とせしむるは路りぬるに梅本れを意乃  
 とせしむるは路りぬるに梅本れを意乃とせしむるは路りぬるに梅本れを意乃

うれ今をのさうらひにさうらひとせしむるは路りぬるに梅本れを意乃  
 とせしむるは路りぬるに梅本れを意乃とせしむるは路りぬるに梅本れを意乃

乃らぬとせしむるは路りぬるに梅本れを意乃とせしむるは路りぬるに梅本れを意乃  
 とせしむるは路りぬるに梅本れを意乃とせしむるは路りぬるに梅本れを意乃

は路りぬるに梅本れを意乃とせしむるは路りぬるに梅本れを意乃  
 とせしむるは路りぬるに梅本れを意乃とせしむるは路りぬるに梅本れを意乃





日あくく人あつ 為業うへたさあつま〜あひつらとねこの  
<sup>海</sup> 船とやとれととる船は入 柏木に〜の船と〜より  
<sup>出</sup> 船と〜也

<sup>海</sup> 船と〜

院乃はあめく女あまちれと〜  
<sup>海</sup> 船と〜  
 終あ〜あも〜の〜を〜  
 せんは〜あも〜終あ〜  
 中あも〜あも〜と〜の〜  
 産院乃は〜あも〜

あ〜あも〜あも〜  
 柏木の熱傷〜  
 〜〜〜

あ〜あも〜あも〜

川

流す水はあ〜あも〜あも〜

<sup>舟</sup> 船と〜

あ〜あも〜あも〜  
 從柏木れ事〜あも〜  
 あ〜あも〜あも〜  
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇

川

あ〜あも〜あも〜

<sup>舟</sup> 船と〜

あ〜あも〜あも〜  
 終あ〜あも〜あも〜

あ〜あも〜あも〜

らむもほれ物じつ... 夕方の栞木  
のこころひのもち... 夕方の栞木  
くひつり... 夕方の栞木

夕方の栞木... 夕方の栞木  
夕方の栞木... 夕方の栞木  
夕方の栞木... 夕方の栞木  
夕方の栞木... 夕方の栞木

稀曲るれ... 夕方の栞木  
夕方の栞木... 夕方の栞木  
夕方の栞木... 夕方の栞木  
夕方の栞木... 夕方の栞木







あふれたるよふに... 古き御所の御殿... 七つと

又あふれたるよふに... 七つと

けしき御殿... 七つと

あふれたるよふに... 七つと

とまがみたるよふに... 七つと

のびる御殿... 七つと

まろくんと... 七つと

よはひの御殿... 七つと

あふれたるよふに... 七つと

時ふ可部とのら也... 七つと

双紙乃批判乃詞也... 七つと

の御殿... 七つと

しよも也... 七つと

ろこも也... 七つと

ク芳の御殿也... 七つと

あふれたるよふに... 七つと

あふれたるよふに... 七つと

あふれたるよふに... 七つと

あふれたるよふに... 七つと

あふれたるよふに... 七つと

あふれたるよふに... 七つと

のうらみはぬきまんとて ばつもの現あへりよなうて次  
ついでとつらと物うらむは息はれ物とたつて一はあへく  
まんとてまうてまうた書物の現ははしきてたつてま可  
然と也

はつらつと物うらむとまうてまうた物 たるも 節のおよぐ  
つと物有とまうしたうらむ

らまにたうんまうとにあらぬととつてたらへくまうととつ  
る 文選向子期思舊賦序 曰隣人有吹笛者發声窅亮  
追想曩昔<sup>カニ</sup>熱<sup>カニ</sup>謚<sup>カニ</sup>之<sup>カニ</sup>也<sup>カニ</sup> 是<sup>カニ</sup>乃<sup>カニ</sup>現也<sup>カニ</sup> 竹本と持得  
るも物乃節と也

うらむとまうてまうた物とつてたらへくまうととつ  
は節と次人ともまうたまうてたらへくまうととつてたらへく  
うらむとまうた物也

はつらつと物うらむとまうてまうた物 たるも 節のおよぐ  
つと物有とまうしたうらむ  
あそとらんうらむとまうてたらへくまうととつてたらへく  
やうらむとまうた物とつてたらへくまうととつてたらへく  
うらむとまうた物也  
あつらうらむとまうた物とつてたらへくまうととつてたらへく  
夕書れ物也車はまうた書れ物とつてたらへくまうととつてたらへく  
は節と書れ物とつてたらへくまうととつてたらへくまうととつてたらへく  
つらうらむとまうた物也 たるも 是<sup>カニ</sup>乃<sup>カニ</sup>現也<sup>カニ</sup> 竹本と持得  
よつらうらむとまうた物とつてたらへくまうととつてたらへく  
あつてまうらむとつてたらへくまうととつてたらへく  
の節とつてたらへくまうた物とつてたらへくまうととつてたらへく  
あつてまうらむとつてたらへくまうととつてたらへく

色あはれにこれうねりうららとまきとんやういふもたふん

乃ゆや栞本れは第をとりれとくまらけきんえちうらな

らゝのねりうららとちひせ給ゆや

とらんらううそはく入てく一那くおららく ちんえんじ

らうり傳うれとのねりひとや

あまこらねりうとちひせ給へらあまこらあまこらひて

心かへんあまこらとんこしてとれたうらとらとらとらとら

て 栞本のちやうよのねりもや

むくくとあまこらとらとらとらとらとらとらとらとらとら

せとらとらねりうらんとそしせ給へら 栞本を思ふまじり

て和ねとせらう一事ハゆらまらねるへく一にれ第とらうへ

あまこらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとら

あまこらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとら

あまこらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとら

あまこらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとら

あまこらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとら

あまこらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとら

あまこらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとら

あまこらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとら

あまこらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとら

あまこらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとら

あまこらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとら

あまこらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとら

あまこらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとら

あまこらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとら

あまこらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとら

あまこらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとら

あまこらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとら

あまこらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとら

泣くもなほわづらひておぼせたりしをば

高き草より夕雲の影をさすも  
つむぎあるにふらふも終る也

うらむるもつらふれはふらふも  
うらむるもつらふれはふらふも

夕雲の影をさすも  
夕雲の影をさすも

つむぎあるにふらふも  
つむぎあるにふらふも

うらむるもつらふれはふらふも  
うらむるもつらふれはふらふも

引き去ると

うらむるもつらふれはふらふも  
うらむるもつらふれはふらふも

高き草より夕雲の影をさすも  
つむぎあるにふらふも終る也

うらむるもつらふれはふらふも  
うらむるもつらふれはふらふも

うらむるもつらふれはふらふも  
うらむるもつらふれはふらふも

暁

いさふううあゆも 古え 栞本たすのや女二あま栞本  
のあへーいふゆーさまもさうり宮あてまーまもさうた  
うはなぬいもさうくもさうーなうーあうたのあうり  
ーまもさうあまの夕雲のさうも也

見とさうさうさうとわーくもへくれ 為雲さうり栞本  
のさうのまもさうりしりふーさうさうさうさうさうさう  
我んおさうさうさう也

たうのまもさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
そあううーさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

我は申れ 雲あふると夕雲とれあうさう也  
うらうーさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
一月の程さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
夕雲さうり雲あふると

お深さうさうさうさうさうさうさう

いさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
お深さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
まもさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
て惟えうじもあれおハ又あのかまもさうさうさうさう  
のおさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

うはさうのさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
うわさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
のお神さうさうさうさうさうさうさうさうさう

なれ人のさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
り 雲中ハ栞本のまもさうさうさうさうさうさうさう  
終と也

醒竹さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
終と也





ねはらさるるなり

梅

うらまへららしきもこころしきものなりとて

まじふは海もまじふは山もまじふは

夢のまじふはまじふはまじふは 梅木のまじふはまじふは

たやまうしきなりとてたやま 雲わねの初也つひに

とてなり

うらまへららしきもこころしきものなりとて 梅葉

まじふは海もまじふは山もまじふは

たやまうしきなりとてたやま 雲わねの初也つひに

とてなり

うらまへららしきもこころしきものなりとて 梅葉

まじふは海もまじふは山もまじふは

たやまうしきなりとてたやま 雲わねの初也つひに

とてなり

うらまへららしきもこころしきものなりとて 梅葉

まじふは海もまじふは山もまじふは

たやまうしきなりとてたやま 雲わねの初也つひに

とてなり

うらまへららしきもこころしきものなりとて 梅葉

まじふは海もまじふは山もまじふは

たやまうしきなりとてたやま 雲わねの初也つひに

とてなり

うらまへららしきもこころしきものなりとて 梅葉

まじふは海もまじふは山もまじふは

たやまうしきなりとてたやま 雲わねの初也つひに

とてなり

うらまへららしきもこころしきものなりとて 梅葉

まじふは海もまじふは山もまじふは

たやまうしきなりとてたやま 雲わねの初也つひに

あつたてらるゝ

あつたてらるゝ栂葉寺とていふ准もなほれうゝあま

あつたてらるゝ栂葉寺とていふ准もなほれうゝあま

あつたてらるゝ栂葉寺とていふ准もなほれうゝあま

あつたてらるゝ栂葉寺とていふ准もなほれうゝあま

あつたてらるゝ栂葉寺とていふ准もなほれうゝあま

あつたてらるゝ栂葉寺とていふ准もなほれうゝあま

あつたてらるゝ

あつたてらるゝ栂葉寺とていふ准もなほれうゝあま

あつたてらるゝ栂葉寺とていふ准もなほれうゝあま

あつたてらるゝ栂葉寺とていふ准もなほれうゝあま

あつたてらるゝ栂葉寺とていふ准もなほれうゝあま

あつたてらるゝ栂葉寺とていふ准もなほれうゝあま

あつたてらるゝ栂葉寺とていふ准もなほれうゝあま

あつたてらるゝ

この節とていひてはるゆへありまのまてむらさき色に  
ついでとまらまじりぬ乃道はむらさきとまらまじり  
事やむらさきとまらまじりぬとまらまじりぬとまらまじりぬ

六条院はまらまじりぬ 押白りまらまじりぬ  
女は乃まらまじりぬとまらまじりぬとまらまじりぬ

源氏にありまらまじりぬ  
このまらまじりぬとまらまじりぬとまらまじりぬ

ゆゑ女師のは服也 後一白きまらまじりぬ  
いふいふまらまじりぬとまらまじりぬとまらまじりぬ

とまらまじりぬとまらまじりぬとまらまじりぬ  
まらまじりぬとまらまじりぬとまらまじりぬ  
まらまじりぬとまらまじりぬとまらまじりぬ

ちの節とていひてはるゆへありまのまてむらさき色に

ついでとまらまじりぬ乃道はむらさきとまらまじりぬ

事やむらさきとまらまじりぬとまらまじりぬとまらまじりぬ

六条院はまらまじりぬ 押白りまらまじりぬ  
女は乃まらまじりぬとまらまじりぬとまらまじりぬ

源氏にありまらまじりぬ  
このまらまじりぬとまらまじりぬとまらまじりぬ

ゆゑ女師のは服也 後一白きまらまじりぬ  
いふいふまらまじりぬとまらまじりぬとまらまじりぬ

とまらまじりぬとまらまじりぬとまらまじりぬ  
まらまじりぬとまらまじりぬとまらまじりぬ  
まらまじりぬとまらまじりぬとまらまじりぬ



一給りとあつてもひびきもせ

正海

と海たるも随分とよまの徳官とすべし此の随分と

あつても

いふやうなうそをいふはくわいであらぬ 孫氏の知也とすべしといふ  
はやくもいふやうなうそをいふはくわいであらぬ

あつてもいふやうなうそをいふはくわいであらぬ

いふやうなうそをいふはくわいであらぬ

三葉乃洋のいふやうなうそをいふ

こつともいふやうなうそをいふはくわいであらぬ

あつてもいふやうなうそをいふはくわいであらぬ

あつてもいふやうなうそをいふはくわいであらぬ

あつてもいふやうなうそをいふはくわいであらぬ

あつてもいふやうなうそをいふはくわいであらぬ

孫氏の知也

あつてもいふやうなうそをいふはくわいであらぬ

あつてもいふやうなうそをいふはくわいであらぬ

あつてもいふやうなうそをいふはくわいであらぬ

あつてもいふやうなうそをいふはくわいであらぬ

あつてもいふやうなうそをいふはくわいであらぬ

あつてもいふやうなうそをいふはくわいであらぬ

あつてもいふやうなうそをいふはくわいであらぬ

あつてもいふやうなうそをいふはくわいであらぬ

あつてもいふやうなうそをいふはくわいであらぬ

あつてもいふやうなうそをいふはくわいであらぬ

あつてもいふやうなうそをいふはくわいであらぬ

あつてもいふやうなうそをいふはくわいであらぬ

その後の梅も子たるにふりよそやなれども居るの御心  
 一梅木のよよたりてやういふおららばおれあつらひ  
 一いふおれいふおれいふおれいふおれいふおれいふおれ  
 一いふおれいふおれいふおれいふおれいふおれいふおれ

ちぢにけいおれいふおれいふおれいふおれいふおれいふおれ  
 一いふおれいふおれいふおれいふおれいふおれいふおれ  
 一いふおれいふおれいふおれいふおれいふおれいふおれ

一いふおれいふおれいふおれいふおれいふおれいふおれ  
 一いふおれいふおれいふおれいふおれいふおれいふおれ

一いふおれいふおれいふおれいふおれいふおれいふおれ  
 一いふおれいふおれいふおれいふおれいふおれいふおれ

一いふおれいふおれいふおれいふおれいふおれいふおれ

一いふおれいふおれいふおれいふおれいふおれいふおれ

一いふおれいふおれいふおれいふおれいふおれいふおれ

并  
 向  
 向  
 向

一いふおれいふおれいふおれいふおれいふおれいふおれ

一いふおれいふおれいふおれいふおれいふおれいふおれ

一いふおれいふおれいふおれいふおれいふおれいふおれ

いふくおのこ終つてうらつたれはとほくは夜やうたつた海  
てうらちをこゑらうとてわらわのうらちをなるともあつて

まゝのうらちの柘木はくはつたつた

おとつたあつたまはねつたつた 夕暮れはつたつた

まに葉をたつたあつた柘木はつたつたつたつたつたつた

つたつたつた柘木はつたつたつたつたつたつた

つたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつた

つたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつた

源氏乃柘木のはつたつたつたつたつたつたつたつた

このつた

つたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつた

つたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつた

つたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつた

つたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつた

つたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつた

つたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつた

柘木はつたつたつたつたつた

つたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつた

つたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつた

つたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつた

つたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつた

つたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつた

つたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつた

つたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつたつた

とにれもと進ぐるゝぬらんこれ一葉乃あなり申うしてさうりた  
りあをきし一葉をぬもとまきしして終つるといふ 源氏出づるの  
決りて人わたり終るゝ夕暮とはお終り終ると也

しりあをてとてあつた 夕暮の落葉を今もくつと終  
りしきはらうのゆきとて源氏のこゝ終つてのこゝまや

名たる若れ事終るらんくくあ人志しひるもく終り  
くは夕暮れ落葉宮人わたり終つて若れ終るとも終りし

しりあをてとて源氏下りくつと終つて力したるその物終り終  
神と源氏の批判し終つてあへりくつと終つてと終つてと終り

夕暮れあつたらんくつと終り

あれとく終るらんくつと終りくつと終りくつと終りくつと終り  
るらんくつと終りくつと終りくつと終りくつと終りくつと終り

のあつたらんくつと終りくつと終りくつと終りくつと終り

らまや

女ハあつたらんくつと終りくつと終りくつと終りくつと終り  
めとあつたらんくつと終りくつと終りくつと終りくつと終り  
くれらんくつと終りくつと終りくつと終りくつと終り  
事そとあつたらんくつと終りくつと終りくつと終りくつと終り  
其末はくつと終りくつと終りくつと終りくつと終り

ハ夕暮れと也源氏乃初也

あつたらんくつと終りくつと終りくつと終りくつと終り  
ぬとあつたらんくつと終りくつと終りくつと終りくつと終り  
もとあつたらんくつと終りくつと終りくつと終りくつと終り  
あつたらんくつと終りくつと終りくつと終りくつと終り  
あつたらんくつと終りくつと終りくつと終りくつと終り

あつたらんくつと終りくつと終りくつと終りくつと終り  
あつたらんくつと終りくつと終りくつと終りくつと終り  
あつたらんくつと終りくつと終りくつと終りくつと終り





一、クモの歌也

何れもむかしは雨の音もなほしづかに聞こゆとて  
世上の情状をいつくしむるもなほしづかに聞こゆとて  
あはれもなほしづかに聞こゆとて

あはれもなほしづかに聞こゆとて  
あはれもなほしづかに聞こゆとて

あはれもなほしづかに聞こゆとて  
あはれもなほしづかに聞こゆとて

あはれもなほしづかに聞こゆとて  
あはれもなほしづかに聞こゆとて

あはれもなほしづかに聞こゆとて  
あはれもなほしづかに聞こゆとて

あはれもなほしづかに聞こゆとて  
あはれもなほしづかに聞こゆとて

てとてしづかに聞こゆとて  
あはれもなほしづかに聞こゆとて

あはれもなほしづかに聞こゆとて

あはれもなほしづかに聞こゆとて  
あはれもなほしづかに聞こゆとて

あはれもなほしづかに聞こゆとて  
あはれもなほしづかに聞こゆとて

あはれもなほしづかに聞こゆとて  
あはれもなほしづかに聞こゆとて

あはれもなほしづかに聞こゆとて  
あはれもなほしづかに聞こゆとて

あはれもなほしづかに聞こゆとて  
あはれもなほしづかに聞こゆとて

あはれもなほしづかに聞こゆとて  
あはれもなほしづかに聞こゆとて

又と桃室は式アノノ事とあり是ハ孫ノ宴アリト云ク月  
テリキト云クヤウニシレト陽成院ノ孫也此節自相  
違ヒト云也 曰海云 式於ノ可節

は式於ノ宮非人平陽成院ノ孫傳トありト彼皇子也  
細キ元也親王ニ式アノノ母王也 元利親王ニ式アノノ母同 二人乃リ元  
位ハ人キ強官経之各宴不ウヤ何

葉之由院式於ノ貞保親王事也ハ大王孫行ノ長志陽  
成院也也也育王事也 又云ハ式アノノ文ハ禮成院  
父相也 事也彼と貞保親王 擬ト云ク元云 元云 南  
宮式アノ貞保親王事也也也清和子ニ葉成陽成院

ノ事也也云と案上ハ式於ノヨクハ人ト云ク又ハ人  
ト云クあり也ノ終ト云ク 拜花云 貞保親王事ノ  
見河海桃室式アノノ秋ノ宴セト云ク也貞保親王事

云クノ終也ハ節終ノハト云ク又云ハ陽成院  
云桃室相違也 元 元帝式アノノ文有故ト也也葉事  
也云云

云ハ官ノ孫ノ元ンヤト云クありト云クノ事ト云ク  
云ト云ク 拜花云 桃室云ト宴育ト云クハ  
女ノ也ト云クト云クト云クト云クト云クト云クト云ク  
ノ事ト云ク 拜息ハノ事ト云クト云クト云クト云クト云ク

ハ云クト云クト云クト云クト云クト云クト云ク  
ト云クト云クト云クト云クト云クト云クト云ク  
云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云

云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云  
云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云  
云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云

云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云  
云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云  
云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云云



あはれなるのほろひもや

うらやまのつらさし 源氏もいふはなはたはつらさ

花神さしほひあふもや

あはれなるのほろひもや

あはれなるのほろひもや

あはれなるのほろひもや

あはれなるのほろひもや

あはれなるのほろひもや

あはれなるのほろひもや

あはれなるのほろひもや

あはれなるのほろひもや

あはれなるのほろひもや

あはれなるのほろひもや

あはれなるのほろひもや

あはれなるのほろひもや

あはれなるのほろひもや

あはれなるのほろひもや

あはれなるのほろひもや

とや

あはれなるのほろひもや

解元

はなもてうらやまのつらさし

接

2

三十一

1  
 2  
 3  
 4  
 5  
 6  
 7  
 8  
 9  
 10  
 11  
 12  
 13  
 14  
 15  
 16  
 17  
 18  
 19  
 20  
 21  
 22  
 23  
 24  
 25  
 26  
 27  
 28  
 29  
 30  
 31  
 32  
 33  
 34  
 35  
 36  
 37  
 38  
 39  
 40  
 41  
 42  
 43  
 44  
 45  
 46  
 47  
 48  
 49  
 50  
 51  
 52  
 53  
 54  
 55  
 56  
 57  
 58  
 59  
 60  
 61  
 62  
 63  
 64  
 65  
 66  
 67  
 68  
 69  
 70  
 71  
 72  
 73  
 74  
 75  
 76  
 77  
 78  
 79  
 80  
 81  
 82  
 83  
 84  
 85  
 86  
 87  
 88  
 89  
 90  
 91  
 92  
 93  
 94  
 95  
 96  
 97  
 98  
 99  
 100



